

平成31年度第1回（第45回） 外務省契約監視委員会  
議事概要

開催日及び場所	平成31年4月24日（水） 於：外務省202号会議室	
委員	委員長 中谷 和弘 委員 三笥 裕, 宮本 和之, 門伝 明子, 増井 良啓	
抽出案件		(備考)
一般競争方式（政府調達に関する協定適用対象）	3/9 件	審査対象： 平成30年度第3四半期
一般競争方式（上記以外）	3/48 件	
指名競争方式	0/5 件	
企画競争に基づく随意契約方式	0/14 件	
公募に基づく随意契約方式	0/2 件	
その他の随意契約方式	4/47 件	
合計	125 件	
	意見・質問	回答
委員からの意見・質問、それに対する外務省の回答等	別紙のとおり。	別紙のとおり。
委員会による意見の具申又は勧告の内容	なし	
その他	会計課調達官より、「平成31年度外務省調達改善計画」の概要説明を行い、委員より了解を得られた。	

別紙

委 員	外 務 省
<p>1. 物品・役務等の契約(総括表) (特段の意見等なし)</p> <p>2. 指名停止等の運用状況 (特段の意見なし)</p> <p>3. 再度入札における一位不動状況 (特段の意見なし)</p> <p>4. 低入札価格調査制度調査対象の発生状況 (特段の意見なし)</p> <p>5. 抽出案件の審議</p> <p>②-9「Wi-Fi環境用機器等」の購入</p> <p>○パロアルト製品とは何か。</p> <p>○余裕をもった納期を設定することで、他者が入札に参加することが可能ではなかったか。</p> <p>⑥-33「『中央アジア+日本』対話・外相会合及び共同記者会見におけるロシア語通訳」業務委嘱</p> <p>○会議自体が延期になったとのことであるが、契約を解除したのか。キャンセル料の金額は毎回交渉して決めているのか。</p> <p>①-8「『統合 Web 環境』(データセンター、ハードウェア及びソフトウェア、アプリケーション開発・移行)構築・運用・セキュリティ監視・保守(構築作業)」業務委嘱</p> <p>○一者応札となった理由について。他にも参加していたと思ったがいかがか。</p>	<p>●パロアルトとはUTM装置の製造業者である。同製品は受注後アメリカで製造され本邦へ輸送されるため、代理店によって納入までの期間に多少の差が生じる。</p> <p>●然り。そこは反省すべき点である。</p> <p>●事業が中止となったため、キャンセル料を支払った。また、キャンセル料は事前に取り決めている。</p> <p>●応札したのは一者のみであった。統合 Web 環境は、ホームページ等の運用を支える基盤であり、安定的な稼働等のために複雑なシステムを構築する必要がある。説明会には多くの業者の参加</p>

委 員	外 務 省
<p>○複雑なシステムの場合、複数の業者で行うシステムにできないか。</p> <p>○参考見積もりには整備経費と運用等経費に分けているものがあるが、今回は整備経費のみなのか。</p> <p>○運用部分は、別の業者が参入する可能性はあるのか。それとも随意契約になるのか。</p> <p>○今回の入札は、整備から運用までの事業が対象なのか、それとも整備部分のみなのか。整備のみであった場合、運用経費を抑える対応等考慮したのか。</p> <p><b>⑥-11 「文化無償資金協力フォローアップ事業『ボスニア・ヘルツェゴビナ公文書館文書保存機材整備計画』業務委嘱</b></p> <p>○部品の供給が停止しているとのことであるが、部品がなくなったら機材は使用できないのか。</p> <p>○現地では文書の保存は適切になされているのか。また、それをどのように確認しているのか。</p> <p><b>①-9 「緊急備蓄品」の購入</b></p> <p>○備蓄品の種類は各館共通であるのか。或いは、所在地域の気候等に応じて仕様を変えているのか。</p> <p>○備蓄品を取り扱っているメーカーはグリーンケミー以外にも存在するが、他社が入札に参加できないような特殊仕様であるのか。</p>	<p>があったが、高い技術力と複雑なシステムを構築するための人材の確保や、コストとのバランスが困難等の理由から、入札には参加いただけなかったと考えている。</p> <p>●回線などについては、個別契約で行っている。統合Web環境の構築のシステムは、それが一体のものとして機能しないと問題が生じるため、切り分けることは困難と考える。</p> <p>●整備経費になり、運用等経費は今回の対象ではない。</p> <p>●別業者の可能性は困難なため、構築した業者が運用についても行う予定である。</p> <p>●今回の入札は整備部分のみであるが、それだけで入札を行った場合、運用経費で恣意的に価格があげられることが考えられたため、入札時に、整備経費の何パーセント以内という制約を付け、公正な競争性を確保した。</p> <p>●機材や部品の種類等によって状況は異なるが、適切なメンテナンスを行うことにより、機材の耐久年数を延ばすことは可能と考える。</p> <p>●適切に行われてきた。現地から報告を受けることにより、適切に行われていること及び現地の状況を確認している。</p> <p>●基本的には同一である。</p> <p>●特殊性はなく、汎用性のある仕様となっている。</p>

委 員	外 務 省
<p>⑥-6 『在外公館施設の法定点検及び長期修繕計画遂行業務』実施に向けた実施マニュアル作成」業務委嘱</p> <p>○実施マニュアル作成のための現地調査対象公館はどのような基準で選定したのか。</p> <p>○見積書における諸経費率の算出について。</p> <p>○実施マニュアルを作成した場合と、しない場合との費用対効果あるいは経費削減見込はどうなっているか。</p> <p>②-21 「研修所別館自家発電機設備整備工事」業務委嘱</p> <p>○外注率が高い業者と見られる、本工事における再委託に問題は無かったか。また、一者応札となった理由について。</p> <p>○本件はさほど難しい工事だとは思われないが、入札に参加しなかったことについて調査は行ったか。</p> <p>②-36 『G20腐敗対策作業部会会合』に係る業務」業務委嘱</p> <p>○一者応札となった理由について。</p>	<p>●作成中のマニュアルの妥当性を検証するため、施設状態の異なるサンプルを念頭に、事務所、公邸共に国有施設を有する公館のうち、築後相当年数を経過した老朽公館及び築年数が比較的浅い公館を、それぞれ複数選定した。</p> <p>●国土交通省基準の官庁施設における設計業務等の積算要領に基づくものと理解している。</p> <p>●経費削減の観点から実施マニュアルを作成し、競争入札が可能な環境を整えた。適切な実施マニュアルに基づかなければ統一性、信頼性に欠ける成果となるおそれがあり、発注者の意図あるいは所定の目的を達成するためにも必須の業務と考える。</p> <p>●基本的に受注者が工事を実施し、所定の手続きを経て再委託を行ったと考えている。一者応札となったことについては、落札業者の他にもう一者に関心を示していたが、実際には入札に参加しなかったものである。</p> <p>●他に興味があった入札案件があり辞退したと承知している。なお、辞退した者は他の入札に参加している。</p> <p>●複数の業者へ声を掛け、参考見積の提出を依頼したところ、参考見積もりは二者から提出があり、入札説明会へも二者の参加があったが、入札へは一者のみであった。理由につき照会したところ、準備期間の関係で十分な体制を取るのが困難であり、かつ、他の案件の受注と重なった</p>

委 員	外 務 省
<p>⑥-37 「日・シンガポール・シンポジウム日本側事務局業務」業務委嘱</p> <p>○企画競争が不調であった理由について</p> <p>○同シンポジウムに応募可能な業者は何社程と想定していたのか</p> <p>①-7 「『領事業務情報システム』に関するコンサルティング」業務委嘱</p> <p>○参考見積もりと入札価格に差があるが、要因はなにか。</p> <p>○本件の落札業者が、今後の調達で有利になり得るのか。</p>	<p>ことにより、対応が困難であるとの回答であった。</p> <p>●本件契約はシンポジウムの会議運営以外にテーマの選定・調整等が必要なところ、企画競争とした。本事業はサブ業務を含めた対応可能な業者がそれほど多くないという問題があると推測される。</p> <p>●今回の契約先以外に、過去に本件を受託したシンクタンクが二者あるため、複数の業者による応募があり得たと考えている。</p> <p>●領事業務情報システムに知見を有するコンサルタントを投入すること等により、工数削減となったことが主な要因である。</p> <p>●適切に仕様書を作成した上で調達手続を実施することにより、公平性を担保する。</p>